



むさしだい

学校だより1月号
令和6年1月9日
中野区立武蔵台小学校
校長 若菜 康史

アイデアをためよう！

校長 若菜 康史

新年あけましておめでとうございます。

今年は辰年です。竜のように勢い付けて空高く（というのは実際に見たことはありませんが…）舞い上がれるような年にしたいものです。

「一年の計は元旦にあり」とよく言われます。今年一年何をしようか、何を目指していきたいかということを考えてみましょう。あるいは、これから考えなくてはと思っているのではないのでしょうか。でも、なかなか思い付くのは、難しいものです。

私も今年はどうしようかと考えたときに、普段やれていないことを続けてみようと思っています。それは、そのときひらめいたことや考えたことを忘れないようにちゃんと記録しておくというものです。前から意識はしているのですが、なかなか続けることができていません。校長室で自分の机に向かい改めて何かを考えようとしても、早々、アイデアが浮かんでくるものではありません。会話の中でひらめいたり、教室を回っているときに思い付いたりすることの方がよくあるものです。そんなときはメモをとったり、スマートフォンのアプリに打ち込んだりするようにしています。全部の考えを実行できるわけではないのですが、時間をおいて見たときに、こんなことを考えていたんだ。そういえばこんなことが気になっていたんだと思い返すことができます。

みなさんはどうですか？いろいろな学級の授業を見に行くと、子どもたちはノートを取りながら授業に参加しています。実際に黒板に書かれたことを「写して」いることが多いと思います。

また、これからはタブレットを使用して授業を受けることも多くなるので、紙のノートに写したりメモしたりする機会が少なくなることもあるのかと考えたこともあります。

私も担任をしていた頃は「ちゃんと写せているか」を気にして指導をしたこともありました。しかし、写せていれば学習内容をしっかりと理解できているのか？と思うことがありました。子どもたちのノートを見ていると、開いたときに輝いて見えるノートに当たることがあります。見ているだけで、こちらが楽しくなってしまうノートです。そういったノートは、黒板に書かれたことはもちろん、自分の疑問やその時思い付いたアイデアやひらめきが、行やマスと言った枠には収まっていなくてもあふれているノートです。

子どもたちがアイデアをためることは、簡単なことではないかもしれませんが、日常生活の中で瞬間的にひらめくアイデア、何かをしながら目に付いたことや、様々な考えを逃さずに記録しておくことは、後々役に立つ可能性が大いにあります。あるときのふとした気付きや発見が将来の目標になったり、自分の強みになったりすることもあるのです。

日々そういったアイデアやひらめきをすぐにためることは難しいかもしれませんが、学びの中でも遊びの中でも少しずつでも、ためていって自分のこととしていたり、周囲と共有できたりすれば更に創造力を広げ、自己表現力を向上させることができるはずです。

今年も、子どもたちが元気に通える学校を目指してまいります。どうぞよろしく
お願いいたします。



令和6年能登半島地震において、被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。
皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。